

富山県総合計画審議会 第3回安心部会 議事要旨

1 日時：平成29年10月19日（木）15:00～17:10

2 場所：県民会館8階バンケットホール

3 出席委員（五十音順）

岩城部会長、尾畑副部会長、片貝委員、槻委員、惣万委員、高田委員、藤井委員、馬瀬委員、宮田委員、山下委員、

浅倉専門委員、伊藤専門委員、稲田専門委員、加賀谷専門委員、白崎専門委員、中道専門委員、長尾専門委員、永野専門委員、原田専門委員、廣田専門委員

4 議事

（1）基本政策答申検討案（安心）について

（2）重点戦略の構成について

（3）長期構想について

5 発言要旨

（1）知事挨拶

本日、富山県総合計画審議会の第3回目の安心部会を開催しましたところ、岩城部会長さんをはじめ各委員の皆様、大変お忙しい中ご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

このたびの総合計画の見直しにつきましては、ご承知のとおり、昨年12月に全体の審議会に新たな10年計画を作りたいということで、諮問させていただきました。その後、活力・未来・安心、また、総合の4つの部会をそれぞれ2度、あるいは3度開催いたしまして進めてまいりました。その間に、各市町村長や各分野の代表で構成しております地域委員会のご意見を聞きました。できるだけ若い人のご意見を聞かなければならないということで30歳代の若者世代で構成します青年委員会のご意見も伺ってきました。また、県議会議員の皆様との意見交換会、また、県内4か所で、タウンミーティングを行いまして、議論を積み重ねてまいりました。

本日は、こうしたいろんなプロセスの中でいただいた貴重なご意見を受け止めまして安心分野の基本計画、また、重点戦略についての答申の検討案、たたき台を提示させていただきますので、どうか委員の皆様には、それぞれのお立場とご見識で率直にお話を承って、せっかく作るのですから、なるほど、立派な計画ができたなど多くの県民の皆さんに、ご評価いただけますように、よろしくお願ひしたいと思います。

安心部会の開催は、今回が最後ということでございますけれども、今後、総合部会での審議を年末に行い、また、年明けになるかもしれませんが、総合計画審議会の全体会議で、さらに議論を深めまして、来春を目途にとりまとめた。また、先般、平成30年度の予算要求基準を記者発表させていただきましたが、ここに今既に盛り込まれつつあるものについては、できるだけ来年度の当初予算にも盛り込めるものは盛り込んでいきたいということで、準備も始めているところです。

また、今ちょうど衆議院が解散ということですのでけれども、選挙を経た新しい政府・与党のお考えも、今のところ、いろいろとたとえば安倍総理も全世代型の社会保障制度ということも仰っているわけですので、そういった国の方針といったものもしっかりと見極めながら、富山県として、県民の皆さんの幸せのため、安心のためにしっかりした計画を作る、そして、着実に実行する、というふうにしてまいりたいと思っておりますので、どうかひとつよろしく願いをいたします。

(2) 資料説明 省略

(3) 意見交換

【岩城部会長】

まず、廣田委員、ご質問等ありましたら、お願いいたします。

【廣田専門委員】

ご指名をいただきました。砺波総合病院でDMATをやっております廣田と申します。非常に立派な計画を作ってくださいまして、非常に頼もしく思っております。

こういう仕事柄、いろんな被災地に入らせていただいたんですが、このメンバーというのは、実際に災害が起こったときにこれだけの人たちが集まって、被災地の中で、今後、医療をどうする、健康をどうするというのを話し合うのに、やはり集まっていたらいい。皆さんと同じような人たちと協議をしなければいけません。

そういう意味では、この会に出席させていただいて本当に大変うれしく思っておりますが、要は、ふだんから顔の見える関係と、それからもう1つは、起こるか起こらないことに関してはあまり過剰に備えるのもいかなものかと思いますが、ただ、いざというときにこれだけの人たちがパッとそろって、そういう次にどうすべきかを相談できる体制をつくっておくことが、そういう人をつくること、それから場合によってはコーディネートできる人間を育てることが一番大事なかなと思っております。

そういう意味では、こういう機会を通じまして、また皆様方といろいろご相談させていただくことが大事だと思っております。

医療の部分それから災害の部分、いろいろ思うところがございます。細かい戦術につき

ましては、またいろいろ医療計画の中のワーキンググループの中とかでもまたご提案させていただこうと思いますが、最終的には富山のとってもいいところ、人に優しいところですね、そういうものが生かせるような安心部門であればうれしかなと思っています。

【岩城部会長】

ありがとうございました。何かほかにご意見ございませんか。

【白崎専門委員】

私は医師会の代表として参加させていただいております。今の説明にあったように、この答申検討案ですか、これは今、廣田先生が言われたように、立派なものではないかと思っております。概ねこの方向で基本的に進めていただければいいのかなと思うんですけども、少しだけちょっと不足する部分があるかなと思って、2つばかり私のほうから提言をもしよろしければさせていただければいいかなと思っています。

1つは、この展開の1にもありますように、健康長寿日本一、先ほど推進から実現を目指すということで、やや言葉のニュアンスも少し深めになったかと思うんですけども、健康長寿ってどれくらいなのかと思って、ここに書いてあるのを読むと、現状では男性は47都道府県中の31位で、女性は14位ということで、案外低いのかなというふうに思いました。

富山県というのは案外コンパクトなまとまった県で、例えば隣の石川と比べて、大きな能登のような僻地もありませんし、救急医療体制や在宅医療とかもそれなりに充実していますし、検診率に関しても、もっとあったほうがいいと思うんですけども、平均はいつています。それから今月末にも富山マラソンがあったり、それから県民歩こう運動とか、スポーツのイベントも比較的あって、食育も盛んではないかと思うんです。でも、どうしてそういうふうに健康寿命が延びていないのか、最後10年間で寝たきりになってしまうのかということちょっと考えると、やっぱり今、最後の10年間で健康に生きるために、今しなきゃならないことをやっぱり県民の皆さんがあまり自覚していなくて、それでなかなかうまく健康寿命が延びていかないんじゃないかというふうに私は考えています。

それで、県民の皆さんにPRしていくかがすごく大事かなと思っていて、ちょっと大胆な話なんですけれども、例えば、「富山県民運動の日」というような日を設けていただければどうか、運動の日でもあればPRもしやすいですし、例えば今、富山マラソンで、私も実は出るんですけども、富山マラソンでは「ノーマイカーデーにしましょう」というCMがかなり流れていて、結構それは印象に残っているんですね。そういうふうに少しそういうふうな日を設けてPRをしっかりすれば県民にも届くかなと思って、そういう日を設けていただく。その日に合わせて、例えばマラソンでイベントをしたりとかウォーキングでイベントしたりとか、あるいは食育の講義をしたりとか、あるいは検診車を横づけし

て、そこで検診してしまうというようなことを一緒にまとめてやってしまえば、よりいいかなというふうに私は1つ思っています。

もう1つは、ちょっと全然話が変わるのですが、デマンド型交通というのが実はこの安心の中に書いてあって、第4の展開の中であって、ちょっとあまり議論の機会がなかったと思うんですけども、実は、要は地域内の交通が全くなってしまうと、高齢化社会の中では全くどこにも行けなくなってしまって、それで健康を害してしまうということが出てくる可能性があるんで、この交通がなくなると、この展開1ですらうまくいかなくなったり、あるいは展開2の「住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の推進」もううまくいかなくなると思います。

ですので、デマンド型交通は、私は高岡ですが、あまりそういうのが見られないんですけども、コミュニティバスに比べるとどうもその維持費が低く、収益性の高いものですし、最近はAIといったものが発達してきておりますので、AIを介してデマンド型交通の需要を予測しながら運行するというのもやっているみたいなので、そういうのがもしできれば取り入れていただければいいかなというふうに思っています。

今言ったことは、先ほど説明があった長期構想にもちょうど盛り込まれている、健康寿命を目指すとかって盛り込まれていますので、それにも合致するのではないかなというふうに思っています。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。そのほかに何かご意見等ございますでしょうか。

惣万さんにお聞きしたいんですけども、今、地域共生社会というのが非常に言われていますけど、その1つに富山型の地域共生社会というのが非常に今見直されて、全国でもこの構築を目指すというのが出ているんですが、このことについて何かまたご意見ございますか。

【惣万委員】

県の調査では、共生型のデイサービスが今、全国で1,720、県内では126ということで、来年の4月からこれが介護報酬に入っていく予定です。でも、まだ指定基準とか介護報酬が幾らになるか等は決まっていませんけど、まだ共生型がこれから増えると思っています。

私は、この共生型が増えるのはいいんですけど、もう1つ、富山県は案外共生型がいっぱいあって、共生とはどんなものかわかるんですけど、今度全国に広がったときに、誰がどう理念とかを教えていくのか私は不安だということと、それと共生型デイサービスが地域包括の下というんですか、町内をまとめて情報を取るような、共生型のデイサービスが地域の拠点つまり500人から1,000人ぐらいの規模の拠点になっていくということが大事なんじゃないかなと思っています。

それには特に地域包括の弱いところは、介護保険には強いんですよ。認知症とか半身麻痺の人とかは強いけれど、障害者に対してとか子どもに対して弱いですから、共生型デイサービスは、子供からお年寄りまで全部いろんな相談にも乗れますので、相談事業を地域包括に持っていけばいいんじゃないかなと思っています。

もう1つは、誰もが働くということなんですけど、私は全日施設外就労のB型就労事業所をしているんですけど、やっぱり重い障害者の方たちも、これからはどんどん働いてもらって、それなりの給料をもらってほしいなと思っていることと、国が言っているように、富山も力を入れて、がんの人たち、20代、30代のがんの人たちで、この意味でも働いていますが、これからは働いていく社会をつくっていかんたらんがじゃないかなと思っています。

私はこの総合計画を見て、すばらしい言葉が並び過ぎて、また良すぎるかなと思っておるんですけど、ある社長さんですか会長さんが、「富山県の人には閉鎖的で採用しない」とか言っておられましたけど、ということは、「開放的」という言葉をどこかに入れてと思うし、「排除しない」という言葉も入れてほしいかなと。何かあまりにもいい言葉が並び過ぎて、ちょっとどうなのかなと。

例えば、安心・安全でも、日本一って言われるんですけど、まだ健康寿命の日本一というものは数字で出てきますけど、安全、防災とか災害に対して日本一を目指すとはどんなことなのかなと、何か目途があるのかなと思っています。今何番目ぐらいにいるのかなとか。そういうものは抽象的でいいんですか。それこそ、蓮舫さんでないけど、日本2位はだめなんですかとか言いたいんですけど。真ん中ではだめなんですかと言いたいんです。ちょっとずれてますけど、よろしくをお願いします。

【高田委員】

今、共生社会ということで言われた。私も、私の出したテーマとか、委員の意見というこの行で、64番目に第1回の会合の中で記録が載っていますが、これで回答が出ておりますから、非常にうまく取り組まれておるといふ具合に思いますが、ただ、言えることは、この計画どおり進めるのは非常にありがたいので、よく取り込んでいただいたなという具合に思っております。しかし、現にやってみますと、共生社会というのは、今までいろんな行政のほうから出されたデータを見ますと、行政のほうとしては、どちらかという数字的に、例えばグループホームの人数を減らすとか、あるいは入院している人を減らすとか、何かそういう数字的に減ったとかいうようなことで、何かいうふうなことを言われておりますが、私たちが言うておるのは、共生社会ですから、現在の障害者と健常者がどううまく共生、ともに生きる、そういうつながりというか、そういうところが一番望むところなんです。

それをどのようにすればよいかとあって、1つ目は、障害者が例えば「私はここが悪い

から、このように助けてくださいよ」と、健常者がそれを見て対応できるという、そのお互いにどうすれば、どの障害者にはどうすればいいみたいなことをお互いに理解し合って助け合う、そういう地域をつくるというのが共生社会でないかと思います。

そうするには、去年からやりましたけども、障害者の防災訓練ですね。障害者が防災訓練で、例えば視覚障害者の方には、このように声をかけてくださいよ、助けに来てくださいよということをやっていただく。それを他の人が見て、「ああ、あのような声のかけ方するんだな」ということを覚えていただくという。それが自然に、例えば駅のホームで落ちるとかありましたが、それも誰か見ておれば、このように声かければいいなど、わかっておれば声かけますが、声のかけ方がわからないもんだから、見て見んぷりしておって、いつの間にやらホームから落ちたという、これは共生社会でないということですね。これを誰でも素直にパッと、「ああ、あの人、目が悪いんだな。よし、何か助けましょうか」という声をかけられる、そういう地域をつくるのが共生社会でないかと思いますので、それを目指して私たちが今考えたのは、防災訓練で、例えば「聴覚障害者の人はこのように声かけてもわかりませんから、このような対応をしてください」ということが、そういった防災訓練は、これで2年間やりましたんですが、やはりそれまで防災訓練だけではなかなか浸透していませんけども、これを何か日常の中で年に何回かそういう機会をつくって、一般の人と障害者と集まって、やはりお互いにそういうことを分かち合えるようなことを続けていくことが共生社会になるんじゃないかなと思います。単なるかけ声だけじゃなくて、そういった遊びと一緒に、何か1つのことを、遊びと一緒に合流してやると、それが「ああ、あの方はあこ悪いんだな」ということわかりますから、自然に助け合いになって、そういった活動に広がっていくんじゃないかと思いますんで、そういうことでよろしくお願いいたします。

【藤井委員】

共生型社会の話が続いていましたので、私もその流れでお話をちょっとだけと思っております。先ほど惣万さんがおっしゃいましたけど、私どもの法人で地域包括支援センターというものをやらせていただいています、おっしゃるとおり、高齢者福祉については相談窓口として非常に頑張ってはいるんですけども、児童とか、あと障害とかという、いわゆる3本の柱となる社会福祉の部分では、ちょっと児童や障害については弱いという形になっています。

ただ、そこに配置されている主任ケアマネジャーや看護師、保健師、あとは社会福祉士といったものは、その高齢者の相談を受けるだけで精いっぱいであることと、あとやっぱり児童とか障害の相談に乗るには経験値が少な過ぎるんで、なかなか難しいなと思っている中、前にちょっと地域包括支援センターを支えるような基幹型の包括支援センターを作っていただけないかというお話をしたときのところが多分、資料1の15ページの3番に

「地域包括支援センターなど地域における包括的な相談支援体制の充実への支援」という言葉をいただいでいて、これがもしかしたらその基幹型的な包括というか、より専門性の高いプロフェッショナルな相談支援ができる人というものの配置みたいなことが将来的にはあるのかなと思って、大変この言葉に私自身は期待をしております。

それで、結構その相談援助とか相談支援とかという言葉が、この福祉の領域のところ、例えば17ページの2番目にも入っておりますし、障害の部分でも入っております。就労支援のところにも入っております。なので、この相談支援というところは、やっぱり本当にプロフェッショナルが必要になってくる、その分野についてのプロフェッショナルが必要になってくると思うので、そこの人材の確保・育成というところが非常に重要になってくるのかなあというふうに思っていますし、そういうプロがいれば、地域住民の方と一緒にプロがその中に入って行って、住民同士の助け合いというものをうまく引き出していくとか、そういうようなこともできていくと思いますので、そういう相談援助、相談支援のプロというものを育成していくというのが、よりもう少し強固に書かれてもいいのかなと思いました。

最後1つだけ、ちょっと英語の言葉、僕もあんまり好きじゃないんですが、キーワードとしてぜひ入れていただいたらどうかなと思うのは「エンパワーメント」という言葉、個や組織を生かしてとか、もっと言えば、人本来の生きる力を生かした形でやっていくということが、最終的には共生型社会というものを作っていくと思っていますので、「エンパワーメント」という言葉、私自身も今自分の仕事の中でもそれを意識しながら働いているんですけども、もしよろしければ、どこかに入れていただければなど、そんなふうに思いました。

【惣万委員】

特に、富山市、ほかの県外、市外わかりませんが、障害者の相談支援事業所が少ないんですよ。1人で200人、300人計画を立てている人いるんですよ。うちだって、0.5・0.5でも八十何人立てていますので、介護保険から比べたら、介護保険は三十何人しか1人で立てんでいいんですよ。それなのに、100人、200人だと、この現状。

そして、働き方改革であんまり働くなと言われても、睡眠時間減らしてでも計画立ててますよ。何でかと言うたら、お金入ってこんですから。何かもう死に物狂いなので、よろしくをお願いします。

【中道専門委員】

これまでの会合で、これまでも口腔機能の向上含めて一応この中には全部盛り込んでいただいたんで、その点については特にこれ以上のことはございません。

ただいまのお話に関連いたしまして、私も7月から富山市の歯科医師会の会長をやりま

して、地域包括ケアの洗い直しといたしますか、歯科の参画が非常に弱いところがございますので、32の地域包括支援センターの現状といたしますか、そういうものをやっぱりきちつと分析しようということで、資料を全部取り寄せてはかってみましたけれども、32あるセンターの中で、多いところは高齢者の人口が6,500人ぐらいございますが、一番少ないところと言うと1,600人ぐらいしかないということでございまして、富山市でも、常勤換算でそのセンターに携わる人が130人ぐらいしかいないということで、分析の問題、介護予防等も含めて、閉じこもりの老人をいかに外に出すかというようなことを含めて、実際にやるためにフェース・トゥ・フェースでその百三十何人ではとてもやれないということで、もちろんその人たちの質のアップも必要です。先ほど言われた専門家の養成も必要かと思えますけれども、それを取り囲む、高齢の方で一応時間があって、ボランティア的にそういう事業に参画してもいいという方をどんどんやっぱりつなぐような形で、もちろん当然教習でも行って訓練していただいて知識を蓄えていただいて、そういう人たちがどんどんやっぱりそういう中に入っていくないと、完璧な共生社会も含めた支援センターの組織もそう、事業もそうですけれども、そういうものがうまくいかないんじゃないかなという印象を、私、この4カ月ぐらい会合に出ていまして感じておりまして、やはりマンパワーの質のアップと、それを支える、今、表に出ていないボランティアの人をやはりたくさんそういうふうなところに参画するような仕組みをどこかにつくっておかないと、言葉だけになっちゃって、実際問題の運用で非常に弱いなというふうに感じました。

【岩城部会長】

どうもありがとうございます。そのほかのテーマで何かご意見等がございましたら。

【稲田専門委員】

県内の製薬企業の代表ということではないかなと思って、私この場に出ておりますが、重点戦略の構成、資料2のほうの5ページ目ですかね、こちらのほうのところに「健康寿命日本一実現」というところですが、厚生労働省の指針の中で医療費とかいろいろな削減を目指したセルフメディケーションの推進という、そういうお題目があるんですが、その中の似たような表現で、「くすりの富山の強みを生かしたセルフメディケーションの推進」という文言が1つあるんですが、こちらというのは、これは何か医療費の削減という視点なのか、それとも何か別のイメージなのか、ちょっとこの文言がわからなかったもので、よろしければ説明をいただければと思います。

【事務局】

厚生部長でございます。今、ご質問いただきましたのは、すみません、確認的に申し上げてあれなんです、資料の2の5枚目、重点戦略テーマでいきますと、「県民が健康で

いきいきと暮らせる社会の構築戦略」という文言の中の「戦略の体系」の3のところ、
「OTC医薬品の活用によるセルフメディケーション」というところの部分でございます。

これの考えておりますところは、本県、医薬品産業、伝統医薬というところの点でも、
現在の医薬品産業という点でも非常に大きく伸びているという歴史と伝統と実績がある
というところで、少なくとも薬用植物、伝統に基づくものの一層の推進ということもあり
ますし、OTC医薬品、市販の一般医薬品の生産というところも実際上がってきており
ますので、そういったところに着目をいただいて、さらに一般の医薬品を使うだけでも実
は富山の強みを生かしたセルフメディケーションではないかということで、そういった観
点で記載をさせていただきました。ですので、結果的に医療費みたいなところまでは踏み
込んで念頭に置いたものではございません。

【稲田専門委員】

ありがとうございます。おっしゃるとおり、その視点は間違いではないとは思いますが
けれども、具体的にどういう取り組みなのかということをやっとイメージできなかった
もんですから。これはこれからというような理解でよろしいんですか。

【事務局】

改めてお答えをさせていただきます。

これは今回の大きな目標、重点戦略を10年かけてというところですので、富山の強みの
中で伝統的な薬用植物あるいは富山の産業の中でたくさん作っていただいているOTCを
自らも使っていただくという形で理念上書かせていただきました。

【稲田専門委員】

ありがとうございます。非常にこういうところまで目を配られて非常に感銘を受けたん
ですが、あと、前回、私が少し触れさせていただいたがんの痛みによる緩和医療のほうで
すね。これは「切れ目のないがん治療」というところですね。あと、それと、がん患者の
方の社会参加、そういう視点も含めた痛みを緩和するという、早期に緩和を始めるという、
そういう視点をこの中に盛り込んでいただきまして、本当にありがたい限りだと思います
し、それと地域共生社会という取り組みの中でも、やっぱり障害者という、病気の方とい
うのは障害者なのか、がんの方というのはどうなのかというところが、どこにカテゴライ
ズされても構わないと思うんですが、そういう痛みを抱えた方がいかに痛みを緩和させて
社会参加するというのが、もう社会的な資源という意味でも非常に大きいテーマですし、
これからがんの方が、人口比率で言いますと、どんどん増えていく統計資料もあるよう
ですので、そういう意味でも、こういう痛みを緩和する、早期に緩和していくという部分
が非常に重要だと思いますので、その分やっぱり重点的に取り組むような施策をいただけれ

ばありがたいなというふうに思います。

【岩城部会長】

これからがん患者が多分社会にたくさん増えてくるんだらうと思うし、その方たちの社会生活というものも非常に問題になってくるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。ほかに何か、どうぞ。

【永野専門委員】

ただいま稲田議員のほうからセルフメディケーションという言葉が出ましたので、富山県薬剤師会の永野でございます。

薬局、薬剤師に関しまして非常にたくさんのかんことを盛り込んでいただきまして、本当に良かったなというふうに考えておりますけれども、まず、「健康寿命日本一を目指す」ということで、薬剤師も当然ここに関与していく「セルフメディケーションの推進」ということも挙げられているというふうに思ひましたんですけども、昨年度から日本の薬局につきましては制度が新しくできまして、健康サポート薬局制度というものでございます。地域中学校区にまず1薬局を目指して置こうということなんですけれども、富山はすごくハードルが高くて、富山県ではまだ今現時点では2薬局しか置くことができていません。と言ひのも、一薬局につき複数、薬剤師がいないと、これ活動できないということがあります。

富山県の医薬品生産高は全国1位ということを知っておりますけれども、薬剤師不足ですね、各薬局には複数の薬剤師がいれば非常に都合よろしいでしょうけれども、なかなか2人確保できないという現状があります。その上に医薬品生産高が1位となりまして、多分製薬さんのほうでも非常に薬剤師不足がうたわれている。全国的に見ましても、薬科大というのは結構できておまして、山口県にも今度できるというふうに知っておりますので、薬科大は富山大学にもございますので、そういうことを求めるというわけではありませぬけれども、あまりにも富山に来る薬剤師が少ない。薬剤師の確保という点でいきましたら、安心の2のほうに書いてあります「看護師・保健師・助産師の養成・確保」というところで、当然これは薬剤師、長期的に見れば10年、20年のスパンで考えれば、薬剤師というのはあまりにも不足しているんじゃないかなと。高齢化も進んでおりますし。ぜひともそういうところも盛り込んでいただけたらなというふうに、急に健康サポート制度というものができましてから、思うようになりました。

【岩城部会長】

薬剤師も少ないということで。どうぞ。

【原田専門委員】

「健康寿命日本一を目指す県」というふうなことやら、あるいは「食の安全・安心の確保、食育推進」というふうなことを考えた場合に、やはりこの健康の基本というのは、食にあるかと思っています。病気になっての治療というのはもちろん大事なのですが、その前に病気にならないように、ふだんの食生活というのはすごく大事じゃないかなというふうに思います。

そういったふうなところで、まずはその人材の育成というのは、これ前回のところでも申し上げたんですが、やはり4年制の大学の設置というのが大事じゃないかなと思います。今、県内には富山短期大学の食物栄養学科というので栄養士の養成はしておりますけれども、管理栄養士となると、やはりそこにハードルがありまして、もちろん専攻科があるんですけども、4年制の大学ですと、4年間勉強してすぐに受験することができるんですが、短大だとさらに4年間というふうなものが必要になります。というふうなことで、まずは管理栄養士を取るためには、すごく長い年月がかかりますよということが1点です。

今、高校生の実情を見てみますと、やはり4大志向に流れております。4年制というふうなことで行きます。富山短期大学の食物栄養学科の学生さんは、とてもいい学生さんが来ております。偏差値の高い学生さんが来ているんですが、今4年制志向ということでなりますと、県内にないので県外へ流れてしまう可能性があります。せっかくのいい人材を外に出してしまうような形になるんじゃないかなと思いますので、ぜひ4年制の大学というふうなことを視野に入れていただきたいなというふうなことが1点です。

それから、現在の栄養士というふうなところでは、私も薬剤師さんというふうなことと同じで、食の支援というか食の相談というふうなことを考えた場合に、すごく素晴らしいものができているんですが、管理栄養士という言葉が、全然出てこないんです。やっぱり管理栄養士の充実というふうなことを考えますと、もしできることなら、重点戦略テーマのところの6のところ「医療・介護・福祉人材の養成確保」というのがありますが、こここのところでも「管理栄養士」という言葉が入ってくると、もちろん食べることというのは当たり前なので、なかなかそこら辺のところは意識されない部分があるんですけども、でもやっぱりその「管理栄養士」という名前を入れて、そこでみんなに栄養のことを認識していただきたい。それが健康寿命につながるのではないのかなと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。

それではこの辺で、一度知事からのコメントをお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【石井知事】

それぞれ貴重なご意見ありがとうございました。

最初に、廣田さんはじめ何人かの方が言われましたけれども、災害なんかのときの対応ですね。そういう際に、障害ある方、社会的弱者に当たるような方々と、災害防災訓練のときに、訓練することはもちろんですけども、常日ごろのやっぱり人のネットワークとか、どこにそういう災害弱者に当たる方が住んでいらっしゃるかどうか、そういうことの情報地域社会である程度共有できているということが大事なんじゃないかと思います。

ただ、同時に、ちょっとこれはプライバシーの問題で難しい問題もありますので、これについてはよく考えてみなきゃいけません、いずれにしても、そういう災害のある方、それからちょっと方向が違いますが、がん患者の社会参加といったようなことも含めて、人のネットワークということが大事なのかなと思います。

それから、デマンド交通の話が出ましたけれども、これはコミュニティバスを、これも路線をどうするかとかいろいろなことがありますけれども、一般的に言えば、コミュニティバスとしてはなかなかうまくいかないんですけども、デマンド型であれば何とかなるんじゃないかというケースは当然あると思いますし、これからどんどん少子高齢化、人口減少という時代に入りますので、デマンド型交通というものも重視していきたいと思われ、これは今回の重点戦略の中でも確か記述があったと思いますが、進めていきます。それから別途、この計画と別に、公共交通のあり方について、かなり各論も含めて、市町村や交通事業者の方々と議論する場を設けて、また単に議論するだけではなくて、具体的な路線の見直しとか、あるいは地域によってはコミュニティバスに変えてデマンド交通にするとか、そういうふうに進めておりますので、大事な視点だと思います。

それから、惣万さんが言われた富山型デイサービス、全国的に普及はしつつあって、そのこと自体は大変うれしいことですし、また、惣万さんはじめ皆さんの御尽力に感謝したいと思います、多分そのことを言われたのかなと思うんですが、国レベルでも、惣万さんのように志と情熱のあるリーダーがいらっしゃる時はいいんですけど、富山型デイ、共生型というのは、ある意味では縦割の仕組みと違って、運用の仕方が非常に、よほどうまくしないと、望ましい方向から外れちゃう恐れもあるので、その点がちょっと懸念している向きもありますから、多分惣万さんはそういうことを念頭に置いておっしゃったんだと思うんで、そうした点をどういうふうにしていくか。幸い今のところ、例えば惣万さんがリーダーになられて、2年に一遍全国大会があって、いらっしゃるし、私も時々というか、大体毎年出て、皆さん方の非常に熱い議論を伺っていると、それなりに安心はするんですけども、長いこれから先を考えると、普及すればするほど、それからまたそういう富山型あるいは共生型のデイについてのいろいろな加算制度を整えば整うほど、みんながそこへ入ってきて、運営が易きに流れるということがないようにしていかなきゃいけないと、こういうふうには思っております。

それから、おっしゃるように、これからB型の事業所の運営もさせていただいているわけですが、これから重い症状の方とかですね、がん患者の方にも働いてもらうような、そういう努力はしなくちゃいけないということがありました。方向としてはおっしゃるとおりではないかと。どなたかがほかの方でもそういうご発言がありました。そのとおりかと思えます。

それから、高田さんが言われた点も、障害者と健常者がともに生きる、どういう点が自分がハンデになるかをいうのを周りの方にそれなりに伝えて、それに対してしっかり健常者がサポートする、こういったような仕組みがおのずからできていくように、地域包括ケア的な考え方も含めて進めていかなきゃいかんと思えます。

それから、エンパワーメントというお話がありましたけれども、できるだけ地域における包括的な相談支援体制というようなことは記述としては書いてあるんですけども、できるだけそれに魂が入るように努力していきたいと思えます。

それから、障害がある方の相談員ですね。富山市さんのほう、全部わかりませんが、地域によっては非常に少なく、したがって、お一人の方が200人もケアするという計画を作ったりするという、なかなか大変な現場になっているようなお話もありました。こういった点についてもまた各市町村にお伝えをして、これは中道さんも言われましたが、マンパワーの質の向上の面と人数の面ですね、量の面と両方あるわけですが、人員の量・質の面での確保、こういったことがこれからおっしゃるとおり大事になると思えますし、この総合計画の中でどこまで細かく書くかということはあるんですけども、心がけていかなきゃいかんと思っています。

それから、稲田さんが取り上げられた、さっき前田厚生部長からお答えしましたが、薬の富山の強みを生かしたセルフメディケーションというのは、必ずしも、だから医療費を減らしたいというところに焦点があるのではなくて、薬用植物も含めて、富山県、ある意味での医薬品の世界に割合皆さん親しみがある。生産額日本一にもなったし、また県内には大変質のいい医薬品をしっかりと製造されているところもあるわけですから、薬用植物なんかの問題も含めて、そういう気持ちを表したつもりですが、いずれにしても誤解のないようにはしなくちゃいかん。同時に、しかし、確かに医療会計的なことから言うと、語弊があるかもしれませんが、よく永田町、霞が関あたりで議論になるのは、風邪をひいた、割合そう重くない症状で大きな病院でずっと待っているという、そういう人がすごく多ければ多いほど、重症患者に本来割かなければいかん診療時間が短くなると、こういう問題もありますので、この点は馬瀬会長もおられますけれども、よく考えて進めなきゃいかんと思えます。

それから、薬剤師が不足しているというお話がありましたけれども、私は、また改めてよく調べてみますが、全国的には割合それなりの数になっているので、富山県内で問題だとすると、今日、関係者がおられないので言いにくいんですが、例えばある大学には薬学

部もあるので、もう少し地域の方が入りやすいような仕組みはないのかとか、私はもう5年前、10年ぐらい前から問題提起しているんですが、なかなか前進しない。何か前進しそうでしない面もありますけれども、これはこれでまたいろんな関係の皆さんの本当のところのお話も聞かせていただいて、また必要な働きかけなども行ってまいりたいと思います。

それから、栄養士さんの話もございました。大事な分野だと思いますけれども、看護師さんについては、非常に長年、看護師さんが不足しているということがあって、まずは富山大学に看護学科の定員を60人から80人に増やしてもらった。それから、総合衛生学院は施設整備も行って体制強化をした。にもかかわらず毎年70人を超す若い女性が4年制に行きたいがために県外に行っているという状況がわかりましたので、いろいろと検討の上で4年制の看護学部を県立大学につくるということにいたしましたけれども、今のところあまり栄養士さんについて、今日初めて伺いましたが、それだけのニーズがあるかどうかということについては、今後またいろんな方面でお話を伺いながら考えていきたいと思えます。

薬剤師さんなんかについては、ご承知のとおり、全国的に相当薬科大学ができて、そういったことの関係でどういうふうにしていくかということだと思います。

とりあえず、今までの感想については、そういうことでよろしく申し上げます。大変貴重なご意見ありがとうございました。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。それでは、引き続き意見交換に移りたいと思っております。それでは、まず医療に関しまして、馬瀬先生、全般的に何かご意見はございますか。

【馬瀬委員】

医療の分野に関しては、前回もちょっとお話しした事柄が全て盛り込まれておりますし、かなり充実しているんじゃないかなというふうに思います。

あと、気になるのは、災害の話なんですけど、富山県で起きる災害について強化を図るということはもちろんですが、この中にも書かれていますが、南海トラフ大地震、それから直下型の東京、関東の直下型地震についての支援体制というか協定というか、そういったものを早急に結んでおく必要があるかなというところと、東日本の時もそうでしたし、熊本地震でもそうでしたが、いろんな救援隊が行きますので、現地でのコーディネーター役を務める方の重要性が浮き彫りになってまいりました。ぜひ富山県でも、災害コーディネーター、いろんな災害がございますので、海の向こうから何かロケットを飛ばすというような話もございますし、いろんな災害のことを想定しなくちゃいけないだろうと。

そういう災害コーディネーターの役割というものがすごく重要で、実は熊本の時にはか

なり混乱して、全く支援を受けられない地区と重複して支援隊が回ったというような地区とあったように聞いておりますので、その点がちょっと心配なのと、ここにも書いてありますが、御嶽山の噴火のことがありまして、実は岐阜県の医師会長から、『山岳救助の訓練に関する事柄を岐阜県としてやりたいと、ついでには高山あたりで研修会を持ちたいので、いずれ富山県にも声をかけますから、富山県の医師会から少し派遣してくれ』というような話も来ております。

医師会としては、そういう地域の特に隣県の災害もありましたし、そういう山岳火山災害ですね、それについても勉強してまいりたいと思っておりますので、ここにしっかり書かれているのは本当にありがたいと思っております。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。そのほか何かございませんか。

【片貝委員】

私は、健康寿命日本一ということで、スポーツ、運動、生涯スポーツの立場から出させていただいております片貝と申します。

タウンミーティングとかパブリックコメントのすごいたくさんのご意見をいただいていたんだなということで、回られた担当の方はさぞかし大変だったろうなと思うとともに、県民の方がこれだけ興味を持っておられるんだなということがわかりました。この新総合計画を県民の皆さんが手に取ったときに果たしてどういうふうにして見られるのかなと考えたときに、重点戦略、わかりやすいのは、重点戦略がとってもわかりやすいと思いました。あとは、横断的なテーマで見ると、何ページをどう見ればいいのかというの、県民の方がわかるのかというの1つあります。

例えば、健康寿命延伸を自分はどういう立場から見ればいいのかと思った時に、そのキーワードが後ろの索引で見れて、健康寿命日本一については、このページとか、この章行けばわかるというような見方もできる方法があればいいのか。例えば、薬の富山と、この薬業についてだったらこのページとか、救急医療だったらこのページとか、何かそういうふうには考えておられるかどうか、そういうのがあったらいいのかというふうには思いました。頭から順番に見る方は、県民の一人一人の方においてはおられないんじゃないかと、自分の興味を持ったものだけとりあえず先に見ようかなというふうに思うもんですから、そういう工夫があってもいいかなと思いました。

もう1点は、第4章の地域別の特性と取組みのところなんですが、富山県民は引っ込み思案といいますか、なかなか自分をアピールできないというのを言われておりますが、自分の地域のいいところもこの総合計画の中にもどんどん入っていったらいいのかなと思いました。

私、地域の市民のマラソン大会なんかで立っていたら、走って参加された方が、「これで帰るのもったいないから、もう1泊して、どこか有名どころをちょっと見たいんだけど、この市に何か見どころございますか」って聞かれたときに、「なあん、何もないちゃ」と言った方もおられたということで、「隣の市に行ったらあるよ」とか、そんなことを言ったという笑い話も本当にあったので、何かその地域のいいところ、具体的なものも入れていってもいいのかなと思いました。

ちょっと余談ですけど、私の自宅の隣に東京から移住されたという方がおられて、その方は全く富山と縁のない方で、富山に旅行に来たときにあまりの景色の美しさに「老後はここで過ごそうと思った」ということで、私の家の隣に引っ越して来られました。

そういうこともあり、こういう総合計画の中にもこの富山のよさを県民の皆様がわかるような、そんな部分をあってもいいのかなと思いました。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。

宮田先生、福祉問題とか介護の問題に関してご意見ございますか。

【宮田委員】

先ほど原田先生から激励の活をいただきました短期大学でありますけれども、全体的なお話になりますが、やっぱり地元の人材は地元で育成するというのは基本だというふうに思っております。

つい先だって長野県の事例をちょっと聞く機会がありまして、長野県は大学進学率が42%だそうできて、全国でもかなり低い。そして大学の収容力、県内の定員が17%しかないということで、結局残りは全部県外に流出をしているという人材流出県であるという、1時間ぐらいで東京に行ってしまいますので、そういうふうな流出をとどめる、そのために県内の人材は地元で育てようということで、信州高等教育支援センターという、県が協力して、そういうセンターを去年設置したそうですが、地元市町村や特に私立大学などと連携しながら、地元のいわゆる地域の大学振興、地方大学の振興に取り組んでいらっしゃるということでした。ちょっと聞き間違いかどうかわかりませんが、県内私立大学への進学者に、今、返還不要の奨学金を入学時30万円まで支給するということですか、あるいは就学支援金として文系15万円、理系25万円を年額支給するとか、いろんな条件があるとは思いますが、こんなふうな取り組みが1つ。そして、例えば上田市の長野大学は公立法人化をしたとかというふうなことなどがあります。それを聞いてはいたんですが、全部行政頼みということを、決して私言おうと思っておりますけれども、結局、基本は既存の私学がとにかく踏ん張って魅力ある教育を展開していくことだろうと思っています。そういった点では、先ほどおっしゃった管理栄養士の養成教育にもリンクする私た

ちの課題ではないかなと、将来構想の1つとしてというふうに思っています。

それともう1つ、そのことと関連して感じますのは、最近、入試の関係で言いますと、推薦入試がどんどん減ってきて、みんな一般入試やセンター入試を受けるというふうな流れになってきておまして、どちらかというところ、普通科の教育重視というふうな流れがあるような気がいたしております。ぜひ高等学校における産業教育といいますか、中小企業も人手不足、それから保育や福祉関係も人手不足ということもありますので、高校における専門学科の教育の充実ということを、ちょうど再編成の時期でもありますので、これは前からお願いしておりますけれども、1つ課題かなというふうに思っています。それが地元の人材は地元で育てるということです。

それともう1つは、やはり介護の人材確保は、先ほど話題に上ってございましたけど、この年間目標のところの個別のところの19ページあたりに出ております「地域住民やボランティアも含めた形での富士山型の人材確保・構成をするという、上のほうにキャリアを積んだ介護福祉士などがいて、富士山の裾野はうんと広くて、若者、女性、中高年者、あるいは他業種、介護ボランティアやサポーターで裾野を広げて、そして順次専門度を上げていくという、こういう構想でいいとは思っています。ただ、その場合にその次の20ページのところで、県民等に期待する主な役割ということで、県民、市町村、福祉サービス事業者、福祉サービス事業者は多分施設や事業所のことだと思えますが、これに加えて、例えば大学や行政機関、あるいは職能団体、介護福祉士会や保育士会といったようなものの役割も期待されていいのではないかなというふうに思っています。と言いますのは、看護人材のところ、看護協会ですとかあるいは医療の関係で医師会も入っていますので、個別の職能団体に頑張ってもらっていますが、頑張ってもらって、そしてみんなで総がかりで取り組んでいく必要があるんじゃないかというふうに思っています。

それからもう1つは、前に私もちょっと第1回的时候でしょうか、発言をさせていただいてまして、この委員の意見と対応状況というところの5ページ、48番ですけど、外国人の介護士の問題なんです。これ、動きとしまして、実はもう県内の養成校、4校ありますけれども、もう既に10%弱の外国人学生が入っております。それで、いよいよ入管法ですとか、技能実習生の制度なども法改正になりまして、来年度おそらく養成校の中のかなりの部分が、あっせん団体経由で外国人留学生を受けるといふふうなことになろうと思います。そうしますと、授業のところ、通訳が必要だとか、実習先で教員が出向いて指導しなきゃならんとか、さまざまな問題あるいはアパートをどうするかとか、アルバイトをどうするかというような、そういう生活支援の問題も含めて結構大きな問題になるであろうと言われております。来年度あたりは10%まで行くか、ちょっとどうか分かりませんが、そういうことも出てきかねない状況です。

それと技能実習生のほうも11月からスタートしますので、これも事業者団体はかなり前向きに取り組んでいこうという姿勢であるようでして、もう既にその受け入れ側の管理団

体の法人もできているようです。

こういったふうに、参考資料1の5ページには、「国の対応を見ながら対応」というふうにありますけれども、多分外国人介護士あるいは養成校を出て資格を取れば永住できるそうですから、家族も呼び寄せも可能だそうですから、多分増えるのは間違いないだろうと。多分、「介護の安全保障」の観点では自給率が、本当は高いほうがいいんでしょうけれども、我々の思いとは別に、そのような状況が予測されます。したがって、動向を見るのはいいのですが、事業者とか養成校ですとか行政だとか、せめて情報交換や連絡協議の場ですね、勉強の場を少しつくっていく必要があるのではないかというふうに思っております。既存の福祉人材確保対策会議もあるのですが、もう少し柔軟な形で、何かそういう場、プラットフォームが必要ではないかなというふうに思っております。

今後、実は私たち、私的な勉強会の場でも、その分野の専門家を呼んで勉強しようというふうなことになっていて、少し幅広く関係の皆さんにも参加していただきたいなというように予定しております。これから10年間ということになりますと、何も書かないわけにもいかないし、かといって今何が書けるかという、さまざまな模索、いろんな方向で悩んでいるところでもあります。現状だけご報告いたします。

【岩城部会長】

どうもありがとうございます。では、この県民が健康、元気に生きておるということで、県立大学看護学部の問題が出るかと思っております。何かご意見ありましたら願います。

【伊藤専門委員】

看護学部の紹介等していただきましたけど、充実しているんですね。教養のほうは射水キャンパスでやることになりますので、工学部と看護学部の融合ということで発展していけば、いろいろなことが起こればいいなと思っております。

私の専門する分野である災害のことをお話させていただきたいと思いますが、資料2の4ページ目ですね、先ほどからも話が出ていますように、大規模災害時にバックアップ機能とか、あとその災害での情報確保ということで、取り組みが書かれておまして、それに対して公共土木機関、あと日常的なその緊急道路、救急車や消防車が通るという緊急道路の確保という点からも、戦略体制の大きな2番(2)(3)に示してあります公共土木施設の整備充実だったり、長寿命化やフィードバックが非常に大事だということで書いていただいて、非常にありがたいなと思っております。

これを具体的に進めていくためには、やはりそういったライフラインが、十分なライフラインでバックアップが本当にできる県にしておく必要があるかなと思っております、そういったことができるには、ネットワークで成り立っていますので、ネットワークが大

事かなと思っております。

その長寿命化であったり整備充実をしていくためには、県は十分やっていけると思うんですけど、県内市町村、市道だったり、そういったところの整備だったり、長寿命化というのを県にも指導的な立場でタッチしてほしいというのが望みであります。具体的には、ちょっと下調べが十分ではないんですけど、今、福井県でやろうとしている取り組みとしては、福井県、富山県にある富山建設技術センターのような部分が、それか市町村か中規模、小規模な自治体からそういった相談を受けて、そこで問題、課題をもんで、そういった有識者、大学教員でもいいですし、県内の専門家にアドバイスを求める、そういった取り組みを福井県が先進的にやっているということがあります。そういった形に富山県もしていけたら小規模・中規模の自治体が助かるのではないかなと思っております。

あと1点、ここら辺と関係ないんですけど、こういった戦略体系に書いてある部分というのは、今、県立大学の環境・社会基盤工学科で担っている人材だと思いますが、こういった人材が、県立大学も入学定員を増加していただいて非常に活気が出てきておりまして、そういった若者が県内に定着してもらおうということが我々にとっても非常にいいことだなと思っております、うちの学科でいいますと、東海地方出身の若者が県内に就職するという事例も増えてきておりますので、どんどんそうやって進めていきたいと思っておりますけど、なかなか県内のそういった企業、ここに災害県土づくりを担う人材が入る企業はなかなか魅力が上がってこないということがあって、結局は公務員になってしまうという実情がありますので、こういった企業の魅力アップとかニーズのあるところへの人材の入学定員を増やすということを進めていただければなと思っております。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。ほかに何かご意見あれば。

【浅倉専門委員】

住宅用火災警報器の設置が義務づけられたのは、平成18年からで、設置からもう10年以上経ちました。本体内部の電子部品の劣化が考えられるため、本体を交換する時期が来ています。中には、「10年間一度も警報器が作動しなかったから、まだ使えるんじゃないか」といった考えの方も少なくはないと思います。住宅用火災警報器で火災から命を守る、これを県民にどのような方法で買いかえの促進強化を図っていくか、またそれと古い家で、特に高齢者宅で未設置について、各地区の消防団員や女性防火クラブ員等が高齢者を巡回して設置を呼びかけていますが、加入には届かないような状態です。これもどのような方法で住宅用火災警報器の設置を強化できるか、ちょっと対策を考えることが必要ではないかと思っております。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。長尾先生、何か全般的に。

【長尾専門委員】

ちょっと気づいた点を2点ほどにまとめてお話ししたいと思います。

今回初めて長期構想という内容が出ていますが、この7つの夢が、10年後、二、三十年後の富山県に集約、帰結する方向性がこのように考えられて、現在、27施策があり、総合計画の中で盛り込まれているわけですから、このような今提示されている計画が「7つの夢」にどのように集約されていくかという鳥瞰図があると、県民の皆さんにもわかりやすいと思います。これからの10年、20年かかって、こういう方向へ進めるために、このような27の施策が考え出されているという、5年間の動きと将来のあるべき姿との関連性を示していただければ、そのために27の施策がこのような形で考えられているということが多くの皆さんに理解されるのではないかなと思いました。

2点目は、私自身観光に関わり合っている部分がありますので、重点テーマの中で、観光地の質の向上とか滞在型、スピード型観光へのシフト、伝統文化、伝統工芸産業の振興、展開に関連している話ですが、特に2の(3)のところに、産業観光ロケ地巡りとか芸術文化という概念が出ています。富山の産業構造を考えると、産業観光というのは今富山商工会議所が中心になって精力的に推進しているところでもありますけど、もっと世界的にアピールするためにも、産業観光というのはもっと大きな取り扱いをしてもいいのではないかなと思います。

やはり第2次産業、ものづくりの県である、そういう施設等を具体的に見ていただくことによって、若い人たちもこれからこのようなものをつくってみたいとか、夢を与える施設にもつながっていているし、世界の人たちも、やはり日本の品質というものは、このようなものづくりによって、プロセスによって磨かれてきているということをつぶさに見ていただき、また体験をしていただくという意味もありますので、ロケ地とか芸術文化も非常に重要な部分です。もっと県の特徴を考えれば、産業観光というのは、もう少し大きく取り扱っていただいてもいいのではないかなと思いました。2点目は、産業観光の取り扱いに関して、もう少しご検討いただけないかということでございます。

【岩城部会長】

どうもありがとうございます。加賀谷委員、何か。

【加賀谷専門委員】

環境の視点から、環境・エネルギー先端県づくりということで、基本政策をまとめていただき、さらには重点戦略のほうでも未来調和型の県づくり戦略ということで、非常によ

くまとめていただいたと思っております。

重点戦略のほうでは、1ページ目のところに、やはり富山県の強みであります先端ものづくり分野、それから医薬品産業というものの参入、それから促進・支援という形で盛り込んでいただいております、それと関連する形で4ページのその環境関係のところだと、循環型・低炭素自然共生社会というところがすごく連携していると思っておりますので、その連携の部分をもう少し出していただくと、富山県というものの特徴が見えてくるのかなというふうに思っております。

そして、今回は長期計画が出ているんですけども、基本政策、重点戦略につながって、この長期構想というのが出てくると思うんですけども、環境トップランナーとやま構想というのが5番目のところにあるんですけども、これを拝見させていただきますと、エネルギー関係、低炭素社会というところはすごく強調されているんですけども、小水力ですとか、そういうところは富山県独自の取り組みという形で理解はできるんですけども、それ以外のところに関してはあまり富山だからというところがちょっとわかりにくいかなという印象を受けました。

ナンバーワンを目指すのか、それとも富山という特色を生かしたオンリーワンを目指すのかというところの視点が、この環境分野でもう少しあるとなおいいのではないかなというふうに感じました。特に太陽光というキーワードがこの長期構想のところにも出てくるんですけども、基本政策や重点政策のところには含まれてはいると思うんですけども、直接的に言葉が出てきていないので、それでちょっとどうかなというところを感じました。また検討いただければと思います。

【岩城部会長】

ありがとうございました。山下委員、環境の保全ということで、何かご意見ありましたらお願いいたします。

【山下委員】

私は、自然環境の保全についてお話しいたします。

お配りいただいた資料を読ませていただきまして、県民の財産であり宝である自然を大切に思う事柄や、次世代に豊かな自然を引き継ぐ取り組みが明記されていて、自然に接する機会の多い自分も何らかのお手伝いをさせていただき、ともに頑張っていきたいと思いました。

今後は、野生鳥獣との共生や絶滅危惧種の保全等に力を注ぎ、これ以上自然界の宝が消えてしまわないような施策も進めていただきたいと思います。野生鳥獣との共生においては、近隣県との連携を図る対策が行われているということですので、グリーンベルトも含め、それにつながる鳥獣対策の継続をお願いしたいと思います。

また、最近被害が目立つイノシシなどの対策について、狩猟者や管理者だけに委ねることにならないで、県民みんなができることから知恵を出し合い、協力して対処していく方法も大事なのではないかと思います。その方向性や環境づくりなどにも、県のほうから主体的に取り組んでいただければよいのではないかと思います。

次に、絶滅危惧種や危急種などの保全についてですが、広く深い視野でつながりのある研究対策が必要だと思います。これらの動植物はわずかな環境の変化で絶えてしまう状況に立たされています。その一角だけを守るのではなく、広い視野でいろいろなつながりを掘り起こしていかないと、残っていく、残していくことが難しいのではないかと思います。

それから、資料の31ページの主な施策の柱立て2及び3に、「自然公園等」という言葉が何度も出てまいります。以前、行政がつくられた自然公園の中には、放置されて利用しにくい状態になっているところも多くあります。隣接する山野などの放置林も目立っています。地域住民が手を尽くせない状態でこのようになっていることが多いので、行政が中心となって、これらを守り育てていく人づくり、環境づくりのリーダーシップを発揮して、方向性を示していただきたいと、このように思います。

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。槻委員、何かご意見ありましたら。

【槻委員】

タウンミーティングとパブリックコメントのほうの資料を見させていただいたんですけども、こちらのほうでも、やはり高齢化ですとか認知症に対しての施策をお願いしますとかいうような意見がかなり多く見受けられるかなと思います。やっぱり県民の関心とかニーズのほうはこれは高いんじゃないかなと思っているんですけども、こちらの重点戦略のほうでは、ちょっと私、前に高齢者の方の社会参加ということで、就労とかを推進したらどうかというような意見も前回言わせていただいたんですけども、その中で重点戦略の5の(4)のところには、「高齢者、若者、女性、障害者等が生き生きと生きがいを持ち、多様な就労や社会参加ができる場の整備」というふうな項目があったり、イメージ図のほうでは、「高齢者の社会活動の参加と介護、認知症予防の推進」というようなコメントも入っています。そちらのほうで、やっぱり高齢者の方に生きがいであったり社会参加というところを含めていただければいいのかなと思っているんですけども、それを見る指標として、こちらの施策のほうにはあまりそういう指標、県民参加指標候補というところの中には、特にそういう目標値みたいなものは入っていないと思うんですけども、この中に例えば65歳の方の就労人数とか割合というものを含めていってたり、あるいは認知症の方が社会的に在宅で過ごしておられる方の割合みたいなものを組まれたらなと思っております。

認知症の方というと、やはりどうしても、ちょっと徘徊であったり問題行動があって、それを家族の方が「ちょっとうちでは見られないわ」ということで、どこかの施設に入れてほしいとか、そういうような意見も、うちの施設でもやっぱりそういうふうな話は聞くんですけども、認知症に対しては適切に対応すれば、その症状の進行を緩やかにすることができるであったり、あるいは地域、在宅でも十分に見守ることができるというような形になっております。そこで、その理解が不十分であるために、やはり虐待とか、そういうようなことも出てくるんじゃないかなと考えておりますので、そちらの周知というか、認知症に対する理解であったり、例えば、今、核家族化が進んでいる中では、やはりちょっと高齢者の方と接する機会が少ないということで、よく知らない、怖いというような形のイメージがつけられてしまうのではないかなというところで、その交流の場をもう少し進めていくというような形での社会参加というのをに入れていただければと考えております。

【尾畑委員】

今回、最終ということでおまとめいただきました。この安心部会はすごく幅広くて、とりわけ健康ですとか、介護とかの部門に非常に重点が置かれて作られています。また、富山の特色として環境の点にも触れているなど、幅広い分野をうまくまとめていただいたことに敬意を表します。

今回は多くの委員の方のご意見もお聞きしながら、「ああ、そうだなあ」と思って伺っておりました。今日は教育委員会の方がいらっしゃっていませんけれど、やはり人材を育成していくことが何よりも大切であるというご意見が多く、そうするとそれを担う機関を作ることも必要となってくる。それと、「エンパワーメント」というご発言もありましたが、一人ひとりが力をつけるための、後押しが今後必要となってきます。またそのためには目標が必要になります。そのような意味で、それぞれの役割の明確化、役割の主体、それぞれの数値目標などが記載されており、この点はいいと思います。ただ、今回示された数値の目標については、いささか疑問な点もあるように思いますので、目標とする項目や指標に関してこの後、各分野の専門の方にご意見をいただかれた方がよいかなと思って拝見しました。

【惣万委員】

すみません、医療のことでちょっと言いたいと思います。

病院に入院しておられて退院してこられたおじいちゃんが私に言いました。「今の看護師さんは手を握ってくれん」つまり脈を取ってくれない。「何されるけ？」言うたら、「挟んでる」というふうに。あれというのは不整脈がわからないんですよ。強弱がわからない。

だから、看護教育は、このオキシモニターからやってほしくないなあと思うことと、それとお医者さんも看護師さんもテレビばかり見てる、あれテレビでやってるんですけど、

わかります？ 自分たちの顔見ないでテレビを見ているということと、それと私たちも経験するんですけど、診断のときにお医者さんと呼んだりとか何かしたときに、聴診器を当てないお医者さんがいる。丁寧な先生は、背中までやっている。

昨日、4年前ですかね、私の友達が肺がんの手術をしました。今ある総合、一緒の病院なんですけど、ある総合病院の今度は呼吸器内科に通っていると、そしたら呼吸器内科の先生も一度も外来受診のときに聴診器を当てない、すぐに検査をするという。これ幾らやったって、検査代高いだけですよ。

例えば、災害があっても聴診器が物を言うんです。そこにCTとかMRIないわけですよ、レントゲンも撮れないとか。まあ撮れるときもありますが。だから、お医者さんも、自分の聴診器を当てたそれを信じて、ある程度診断のできるお医者さんを増やすべきだと思っています。それが一番です。

【片貝委員】

安心5の健康寿命日本一を目指す総合対策推進のページの裏側が富山県の平均寿命と健康寿命の差の表が出ているんですけども、統計のことはあんまり詳しくはないんですが、この健康寿命のデータと平均寿命のデータと年度が違うんですけど、やっぱり同じ年度のほうがいいんじゃないかなと思って。平成25年の健康寿命と平均寿命と比べるとかなんか、どうなんですかね。何かそこら辺もちょっと見ていただければいいかなと思っています。

【岩城部会長】

それを踏まえまして、この辺で知事からのコメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【石井知事】

それぞれ貴重なご意見ありがとうございました。

この安心部会は非常に幅広い部会ですので、一つ一つお答えするのはあれなんけれども、最初に馬瀬委員がおっしゃった災害コーディネーターは確かに大変大事なので、委員が期待されるほどのレベルかどうかわかりませんが、毎年20人ぐらい養成していきまして、これは今後も努力していきたいと、これは熊本の時もそうでしたし、さかのぼれば東日本大震災はもちろん、阪神大震災の時もやっぱりそういう方がもう少しあればということだったので、おっしゃるとおりかと思っています。

それから片貝さんが言われました、もう少し見やすくという点は、巻末に当然索引的なものはつけなくちゃいけないと、つけるつもりでおりますし、目次なんかもなるべくわかりやすくですね。それから、できれば、結構分厚い資料になって、なかなか一般の県民の皆さん全部通してということはなかなかないと思いますから、普及版を作って、できるだ

けコンパクトなもの作って、なるべく多くの方に見ていただきたいと思います。

それから、「何もないちゃ」という返事をついしてしまったという話もありますけれども、そういうことができるだけ少なくなったほうがいいということで、新幹線開業前に3年ぐらい「何もないちゃゼロ作戦」という大キャンペーンをやりまして、そういうご返事をする人が大分減ったはずだと思うんですけども、やっぱりなかなか100%にはならないという、これはそういったことができるだけ少なくなるように、いろんな場面で、例えば富山県は観光未来創造塾というのをつくって6年間やりましたし、できるだけいろんな場面で努力していきたいと思います。

それから宮田委員さんがおっしゃった中で、特に長野県さんの例が出ましたが、長野県さん、なかなか魅力ある県なんですけど、おっしゃるように大学についてはそうしたことが大きいのかなど。富山県は今回何とか県立大学の定員も大幅に増やしたり、学部も増やす、学科も増やしたりしております、そういうご指摘を受ける前に早く対応したということでご理解賜りたいと思います。

それから外国人の介護のお話がありましたけれども、一般的に技術研修生はご承知のように、今まで3年だったのが5年になっているんですけども、それ以上というのは一般的にはないはずなんです。ただ、介護について、介護ビザを持って何年か就労されて一定の成果が上がると、永住権が与えられると、たしかあつたと思います。いずれにしても、10年の計画ですと、外国人の方の介護とか、いろんな分野への進出というのはかなり進む、あるいは進まざるを得ないのかなという気もいたしますので、総合計画の中であまり細かくなってもいけません、何らかの言及をするようにさせていただこうかなと思います。

それから、ライフラインについて、県のほうは分野別に長寿命化計画もほとんどできたと思うんですけども、市町村についてはまだ進んでいないところもあるかもしれません。こうした点は、また県としてもサポートしていきたいと思います。

それから浅倉さんのおっしゃった住宅火災警報器ですね、これは昔私が東京におりましたときに法律改正をした因縁のものなんですけれども、1個1個みますとそれほど高価なものじゃないので、これを何かお金を出して支援するというのはなかなか難しいと思うんですけども、おっしゃるように10年経ちましたから、取りかえないと、いざというときに作動しないということもあり得ると思いますし、それから随分婦人防火クラブ、女性防火クラブの方には常日ごろご尽力いただいているんですけども、まだまだ例えばご高齢の方のお宅などに設置されていないというケースもございますので、この点、我々も当然行政側として努力いたしますし、それから市町村の消防の制服の皆さん、消防団員の皆さんも含めて、さらに普及啓発に努めてもらいたい。ただ、この分野、とにかく女性防火クラブの皆さんに大変ご尽力いただいている分野で感謝申し上げたいと思います。

それから、長尾委員さんがおっしゃった産業観光は、なるほどおっしゃったとおり、戦略のところを見ると、2の(3)で、ロケ地めぐり、芸術文化と同列に、やや小さな扱い

になっているかもしれませんが、実は活力分野のところでは、大きなタイトルで「立山黒部の世界ブランド化」と「世界で最も美しい湾クラブ」、これをしっかりアピールしていくということと並べて産業観光という大きな扱いになっていますので、この戦略のところの書き方をちょっと工夫させていただきたいと思います。

それから、加賀谷さんがおっしゃった循環型社会、低炭素化社会ということと産業政策との連携というようなことがあります、それと当然そういうふうにしていかないといかんと思います。

それから、先端的なものづくり産業がありますので、こうした循環型社会についても、できるだけ先進的な取り組みをしたいということで、割合富山県は、企業の名前を一々挙げるのもどうかと思いますが、産業廃棄物処理業でかなり、その廃熱で発電をしたり、それから廃熱で園芸を始めたり、それでできた作物、例えばフルーツトマトとかトルコキキョウみたいなものを輸出したりとか、そういう割合に国レベルから見ても先進的な企業もありますし、それから下水道などとかパルプも汚泥処理なんかでできるだけ廃棄物の量が減るように、また循環できるように、例えば堆肥とするなど、努力はしておられるんですけども、そういった点、この計画の中にうまくどこまで書くかということだと思いますが、また心がけていきたいと思います。

それから山下さんから自然保護、野生鳥獣との共生のことについて貴重なお話をいただきました。森なんかについても、水と緑の森づくり税というのを県民の皆さんにご負担いただいて、これで11年目ぐらいになるわけですけども、相当全国的に見れば成果が出ているほうかと思いますが、今後も努力していきたい。

また、絶滅危惧種のことについては、お話しのように、できるだけ幅広い視野で考えていかなきゃいかんのじゃないかと思います。

それから槻さんが言われた認知症の方のお話、これは私どもも、専門的ないろんなご意見だと思いますが、お話しのように正しく対処すると進行がとまるとか症状が軽くなるというような議論もあるようですし、また何より認知症という病気を正しく理解する、また医療やケアの面での体制を整備するということは総合計画に記述してあると思いますけれども、そのおっしゃるような、就労ということになるかどうかわかりませんが、社会参加ですね、こういった点については、もう少しご専門のいろんな方のご意見も聞いた上で、何らかの位置づけをさせていただいたほうがいいのかなと思います。

それから、尾畑さんからは、あらゆる面で人材育成が大事だというお話を伺いました。尾畑委員さんには、立山砂防も含めて、いろんな面で大変ご尽力いただいております。また、人材育成では国際大でも実践されているわけで、また地域学講座の普及というような点でもご尽力いただいておりますので、おっしゃるとおりだと思います。

こうした点もしっかり大事にして進めてまいります。

以上です。ありがとうございました。

(4) 閉会

【岩城部会長】

どうもありがとうございました。

それでは、ほかにもいろいろ意見はおありかと思いますが、そろそろ予定の時間が参りましたので、本日の会議はこのあたりで閉会したいと思います。

閉会に当たり、知事から一言お願いします。

【石井知事】

今日は、皆さんお忙しい中、本当に長時間それぞれに貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

安心部会としては今回が最後ですけれども、冒頭申し上げましたように、いただいたご意見はできるだけ計画の中に生かさせていただきたいと思ひますし、これから総合部会でも議論し、また全体会議でも議論していきます。

ただ、私どものこの総合計画も、今の現計画もそうなのですが、わりあい何ていうかあんまり総論だけではよくないので現実的に各論をそれなりに書いて、読む方、県民の方がイメージが湧くように努力しているんですけども、恐らく他の県の計画に比べて現状でもすごくきめ細かに書いてあるんですね。あんまり細くなり過ぎても、また森を見て山を見ないような話、木を見て森を見ないような話になりますので、そこはある程度バランスの問題もありますので、最後は総合計画審議会等の御議論でまとめさせていただきたいと思ひますので、どうかひとつよろしくお願ひいたします。

本当に今日はどうもありがとうございました。

【岩城部会長】

石井知事、どうもありがとうございました。

なお、本日の会議は、安心部会としては最後の部会ということになります。

本日の議事のうち、基本政策答申検討案につきましては、本安心部会で取りまとめた上、この後、総合計画審議会に諮って最終答申のまとめを行いたいと思っております。

先ほど事務局からも説明がございましたが、来年1月か2月ごろに開催を予定しております、これは12月ですか。総合計画審議会で答申案を審議するという事になっておりますが、この間並行して行われております県の予算編成等によりまして、新たな要素を追加する必要が生じるかと思っております。

この内容につきましては、事務局と部会長である私と尾畑副部会長で十分協議した上で、答申時には最新の内容で出したいと考えておりますが、本日いただいたご意見も踏まえま

して修正・加筆いたしまして、部会長である私にご一任いただければ、安心部会としての取りまとめたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【岩城部会長】

ありがとうございました。

委員の皆様には、最終答申案をお送りして、ご確認をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で予定の審議は終了しましたが、事務局からの連絡事項等がありましたら、よろしくをお願いいたします。

【事務局】

貴重なご意見いただきまして、ありがとうございました。今お手元のほうに「ご意見用紙」という形のタイトルの紙を配らせていただきました。時間の関係でご意見十分に言い尽くせなかったという方もいらっしゃると思いますので、その「ご意見用紙」を使っていただきまして、FAXなりEメールもごございますので、そういった形でご意見等を寄せていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今後、総合部会を経まして、1、2月には審議会を開催し、最終答申を取りまとめさせていただきます。事務局からは以上でございます。

【岩城部会長】

本日は、皆様には長時間にわたり議事の進行にご協力いただき、本当にありがとうございました。また、本年1月以来、9カ月間にわたって、この会を3回にわたり熱心にご討論、ご提言いただきまして、部会長として厚くお礼申し上げます。

以上で本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。